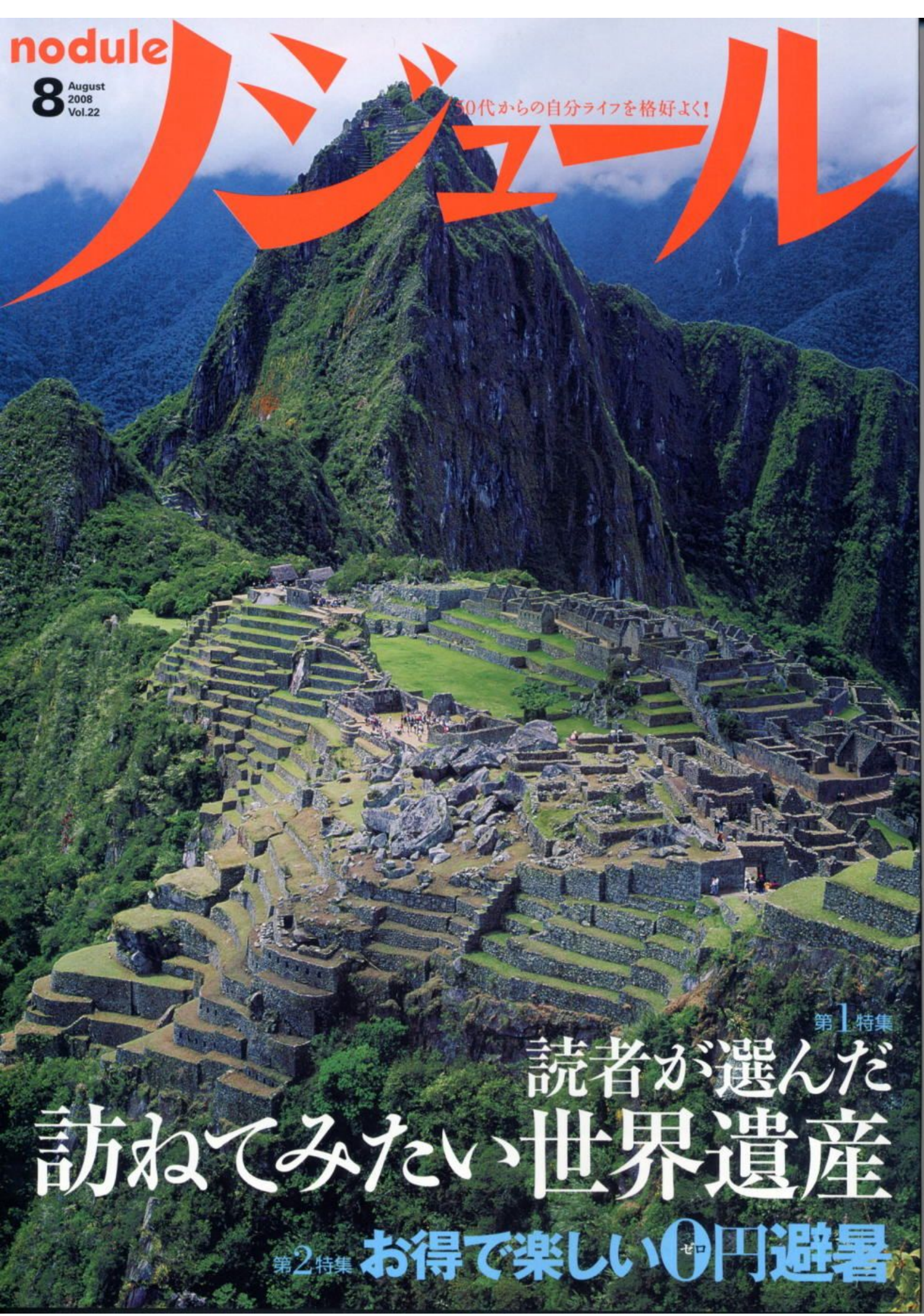
nodule
8 August 2008 Vol.22

ノジュール

50代からの自分ライフを格好よく!



第1特集
読者が選んだ訪ねてみたい世界遺産

第2特集 お得で楽しい0(ゼロ)円避暑

極小のろくろで、
卓袱台上に載せる茶碗を削る。
正面にある工具をかけてある板は、
生家にあったドアを
そのまま今の家に取り付けて使っている

和風ミニチュア家具／てのひら工房（京都）

なつかしさのなかに設計技師の意地も込めて

子どものころには誰の身のまわりにもあった、なつかしい「和」の空間。
戦後半世紀の間に消えてしまった伝統の和家具を、10分の1サイズで精巧に再現する。
ものづくりを仕事として生きてきた団塊世代の設計技師が、退職を機に身を投じたミニチュアの世界には、
遠い日に親やきょうだいと過ごした思い出や家族のぬくもりだけでなく、逆風に立ち向かう強さも垣間見える。

マイホーム主義の日曜大工だった

京都市西京区の新興住宅地に「和風ミニチュア家具／てのひら工房」がある。畑中義明さん(60)の自宅兼作業場兼展示ギャラリーだ。

1947年生まれ。この工房をオープンして7年目になる。掛け軸のある床の間。炬燵の置かれた4畳半。京都らしい階段箪笥。なつかしい卓袱台や時代がかった行灯、火鉢もある。これらは10分の1サイズのミニチュアで、すべて畑中さんの手作り。商品だ。

卓袱台5500円、鏡台7200円、階段箪笥は8段で2万3000円、6段で1万2000円。ホームページから注文して手に入るまで10ヵ月待ちというから、人気だ。

「僕らの作品は、縮尺は割り算だけで済むんです。畳は京間を基本に9㎝×18㎝。建具にもだいたいの規格があるから、それから割り出すわけです」

僕ら、というのは夫婦の合作だからだ。畑中さんは子どものころからの工作好き。京都工芸繊維大学を出て、京都市内の繊維機械メーカーに就職。設計技師として働いてきた。

結婚後は、家の本棚を作ったり、ゴミ箱、炬燵板、トイレのふた……と何でも自作した。いわゆる「日曜大工」。30歳を過ぎて2女の父となると、ミニチュア作りが始まった。小さな洋風の家具をいくらでも作った。「本当にマイホーム・パパだったですわ」。

40歳代、仕事も忙しくなってミニチュア作りは中断。99年、51歳のとき、愛知県犬山市の事業所に転勤となった。隣りの向日市内から現在の新築に引っ越して間もないころの辞令であり、技術から管理部門への異動でもあった。

「下の娘はまだ学校に通っていたし、嫁さんの親もすぐ近所におって単身赴任するしかなかった。マイホーム主義者やったから単身赴任は人一倍嫌やったし、慣れない仕事、好きでない仕事ということもあって、ストレスがたまったんやろうね」

職人肌の設計屋にとって人を管理する仕事は、畑違い。まぶたが垂れ、唇が乾き……体調を崩してしまった。週末に家に帰るたびにミニチュア家具作りが復活した。娘たちのためにではな

掛け軸のある床の間は、定番商品。
室町以来変わらぬ日本の伝統建築は誰にとってもなつかしい。
義明さん(右)と信子さん(左)は、ふたりでそんな世界を作っている

住宅地のなかに掲げられた「てのひら工房」の看板。
畑中義明さんと信子さんの、人生第2の仕事場だ

く、ストレス解消のために。作る家具が洋風から和風に変わったのは、50歳代になったからか。京町家の階段の下に置く階段箪笥を見て、妻の信子さんが歓声をあげた。

「うわー、これ、ええやん」

妻は1949年京都生まれの山科育ち。「京都らしい町家には住んだことのない私には、階段箪笥や坪庭は〝憧れ〟なんですよ」という。

畑中さんは2001年末に早期退職した。54歳。29年間の会社勤めだった。

家族の支えと腕だけがたより

「早期退職とはいっても、つまりはリストラです。退職に応じる前から、ミニチュア家具作りを仕事にしたい思いはあった。自宅のローンは完済していたし、娘ふたりも仕事をしていました。専業主婦だった妻は、会社の仕事よりも僕の体を心配してくれて、『そんなにしんどかったらもう辞めや』『命より大切なもの、ないやろ』ゆうた。『やりたい』気持ちだけでは飯が食えるわけはないという思いもあったけれども、とにかくやってみようと」

宝ヶ池プリンスホテルで家族だけで食事をし、家族に花束をもらった。

「やれるか、やられへんかわからへんやったら、2年ぐらいはやってみたらええ。今まで真面目やったから、子どもらも『お父さん、一所懸命仕事やってくれはったねえ』『1回、やりたいだけやらはったらええやん!』ゆうてくれて。家族としては、上手くいくとは思っていなかったんです。毎月、月給のように蓄えから出すと、どれくらい減るかを計算して、退職金が底を尽かないぐらいというのが2年だった」

信子さんは、そう振り返る。

今でこそ団塊世代の技術伝承が問題になっているが、数多い団塊世代はリストラだってしやすかったはずだ。

――僕がマイホーム主義でなしに仕事ばっかりやっとったら、こんな趣味なかっただろうし。マイホーム主義でよかったんか悪かったんか、と今でこそ畑中さんは思う。が、当時はそんな感傷に浸っている間もなく、翌02年元旦、「てのひら工房」をスタートさせた。同年6月にはホームページを開設、PRを始めた。最初の2年間は、案の定、ほとんど収入ゼロ。これで生活はできなかったが、健康は回復し新製品を増やしていった。

ミニチュア和風家具の根底には、畑中さんが昔暮らした家がある。実家は北白川小倉町(左京区)。父はサラリーマンで、普通の民家だが、料理人だった祖父が昭和の初期に建てた家で103坪あった。自分が生まれて育ったその家の光景を製品にする。

戦後半世紀の間に、社会も、暮らしの在り方も、それまでとは比較にならないほど変わった。その変化が、そのまま「懐かしさ」に比例する。

ミニチュア家具作りを始めた後で、生家が取り壊された。解体される直前に全身ほこりだらけになって建具を持ち出した。天井板は厚すぎず薄すぎず、ちょうどよい厚さの美しい木目だったので、ミニチュア家具の材料に使った。昭和初期の建材は、切ればまだ芳しい香りがした。家にあった古着は布小物に作り替える。ミニチュア家具に付随する座布団や着物などの裁縫は、信子さんの仕事となった。家具も布小物も0・1㎜単位の精度で完成させる。それが良し悪しの決め手。ぬくもりは、そういう細部がかもし出す。

こうして生家をイメージした茶の間などを、定番商品としてホームページに載せていった。

誰かがちゃんと見ていてくれた

ちょうど2年して、転機が訪れた。まずマスコミ。04年1月、読売新聞の西日本版に「昔の家ミニ復元 大きな思い出詰め」と紹介された。後追い取材が続き、ほぼ1ヵ月の間に雑誌、ラジオ、テレビと6つものメディアが取り上げた。なかでも2月に放送された「人生の楽園」(テレビ朝日系)という全国ネットの番組の反響は大きかった。大丸京都店での展示販売と時期が重なり、東京から新幹線に乗って買い

に来た客もいて、需要を確信できた。

「人生の楽園」が放送される少し前、読売の記事だけをたよりに兵庫県西宮市に住む夫婦から、注文があった。畑中さんたちより、少し年下の夫婦だった。

「長年住んだ社宅が取り壊される。そこでの生活が楽しかった。だからその居間をミニチュアで再現してほしい」。

その社宅に出かけ、寸法を測り、写真を撮り、2ヵ月かけて2間を作った。居間に布団が敷いてあるのは、夜勤の夫が昼間はそこで寝ているからだ。その布団には現物のはぎれを使い、桟などの木や濡れ縁も剥がして持ち帰り、そのまま削って使った。デジカメ撮影しパソコン処理したので、襖は柄から汚れから、そのまま小さくなって再現された。

家族が肩を寄せ合って暮らした生活の記憶――。西宮市内に引っ越した新しいマンションにこの作品を届けたとき、依頼者の妻は涙ぐんで喜んでくれた。

「本当に大事なご主人の退職金の一部を『宝石よりも価値があると思って』ゆうて私たちに託してくれはって。本当にうれしかった」(信子さん)

テレビで紹介された後、「家を再現してほしい」という注文は多くあったが、とても応じきれないため、ほとんどは断わっている。定番商品を注文として受け、10ヵ月待ってもらって発注者に納めるというのが、現在の「てのひら工房」の主な仕事だ。訪れる客は同世代が多く、定年後をどう過ごそうか相談に来る人もいる。

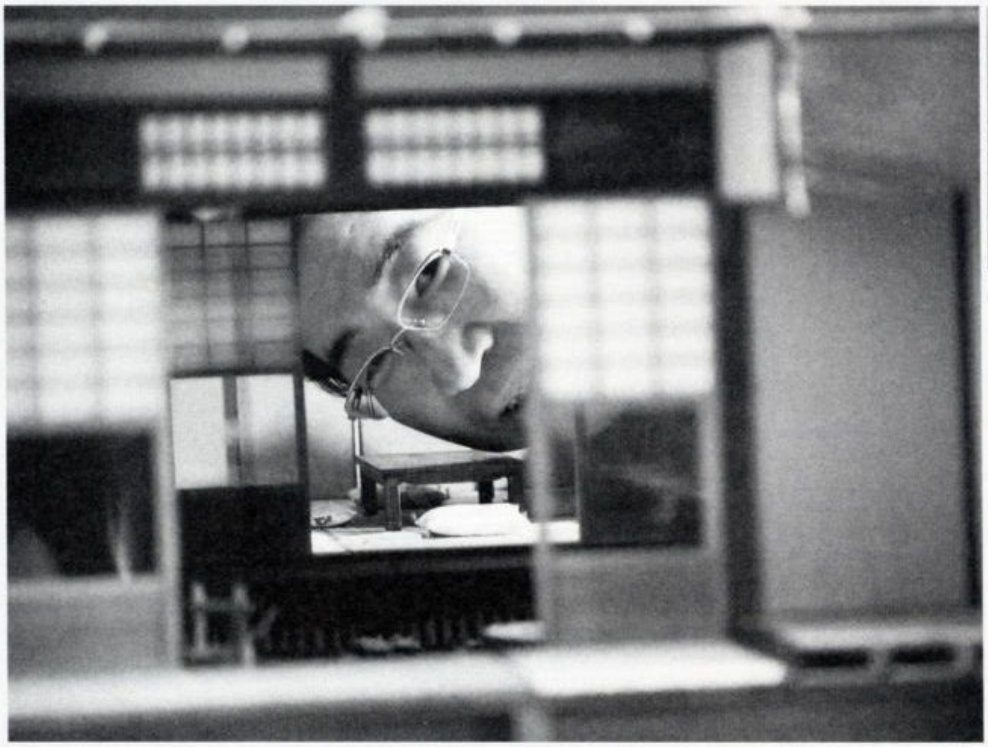
「10ヵ月待ちなんて『もうかっとるやろ』思われるけど、それは作るのが遅いからで。質が落ちないのがこのスピードだから、仕事として〝成功〟したとはいえないです」

と畑中さんはいう。02年の立ち上げから現在まで、ミニチュア家具は――下駄も1個と数えて――全部で1800点作った。鏡台だけで194個、針箱は152個。鏡台1個作るのに1日かかる。定番商品で、部品はあらかじめ切り出してあるとはいえ、効率はお世辞にも、よいとはいえないだろう。収入は、「サラリーマン時代の半分……いや、もっと少ない」。今年2月から一部年金が入るようになった。「それと足して夫婦ふたりの食費が出る程度。でも好きなことをして元気で生きていけてるんやから」という。

妻が、そっといった。

「新聞や雑誌に取り上げていただいて、そのたんびに主人はうれしいんです。会社を辞めてよかったことも確かにたくさんあります。でもやっぱり、『悔しい』という思いはあるんです」

「てのひら工房」の仕事に込められているのは、なつかしさやぬくもりだけではない。



細部にまでこだわって作られた
京町家の和室だが、
10分の1サイズなので、
製作者との大きさの対比はご覧のとおり

てのひら工房 http://www5e.biglobe.ne.jp/~tenohira/